

西根石造建築群



西根集落は道路沿いに、石造の塀や蔵、母屋が連続して建ち並び、美しい石の町並みを形成している。集落戸数20戸余に対し、倉庫、納屋を含めた石蔵は60棟を数える。

石の材料は地元産の徳次郎石とくじらに加え、大谷石も使われているが、江戸時代末期から大正時代の石蔵の大半は、やや青味を帯びた木目の細かい

徳次郎石（屋根石・壁面の張り石）で出来ている。近隣に採石場があり、地域の人々が農業と石工を兼業していたこと、明治初期に火災に遭い防火対策が強化されたことなどから、多くの石造物が建造された。

平成30年、大谷石文化が日本遺産に認定された折、西根集落も構成文化財の一つに入っており、石の文化、特に徳次郎石の文化を今に伝えたい。



富屋地区まちづくり連絡協議会 令和2年建立